

第2学年1組 道徳科学習指導案

指導者 吉川 眞美

主題名 「広がる笑顔」

本主題のねらい

◎ 自分が相手のためにしたいことだけが親切ではなく、相手の思いに気付いて行動することが親切であることに気付き、一日の学校生活の中でどのように行動するのか考えようとする道徳的判断力を育てる。

本主題の考え方

- 本学級の子供たちは、これまでの学習や経験から、親切とは、「困っている人を助けてあげること」であると理解しており、忘れ物をした友達に道具を貸したり、けがをした友達に声をかけたりする姿が見られる。しかし、その反面で、係活動の仕事を勝手に手伝うなど相手の思いを尊重できていないことがある。これは、相手の思いを推し量る経験が不十分であるからだと考える。そこで、交友関係が広がってくるこの時期に本主題を取り上げることは、他者との関係の中で望ましい友人関係を形成していく上で意義深い。
- 本主題では、自分が相手のためにしたいことだけが親切ではなく、相手の思いに気付いて行動することが親切であることに気付き、様々な状況下においてどのように行動するのか考えようとする道徳的判断力を育てることをねらいとしている。具体的には、①価値理解を基に一日の学校生活の中でどのように行動するか考えること、②親切について、複数の登場人物の立場に立って「自分がしたいことだけではなく相手の思いに気付いて行動すること」と捉えること、③価値観の変容を自覚したり、これまでの自己を振り返ったりして、人間としてのよりよい生き方についての考えを深めることである。このことは、道徳科の学びを自分の生き方へとつなげていく上で価値がある。
- 本時の指導にあたっては、導入段階でこれまでの学習や経験から「親切」について想起し、教材の状況と比較することで、本時のめあてについて話し合う。次に、展開段階で、相手の思いに気付いて行動することが親切であることに気付くことができるようにする。そして、学んだ道徳的価値を多様な場面に広げる活動を設定し、価値理解したことが他の場面でも適用するかどうかが自分の経験を書き綴った「自分ノート」を手がかりに考えたり、福岡小学校の一日ではどのような場面で同じことが言えるのか考えたりすることで本時のねらいに迫っていく。最後に、終末段階では、なりたいたい自分について考えることで、「相手の思いに気付いて親切にしたい」という実践意欲を高める。

学びの文脈

《主に学問的・文化的側面》

「親切」とは、相手の心や相手の置かれている状況と自分の気持ちが一致して、適切な手を差し伸べることである。低学年における「親切、思いやり」の内容項目は「身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること」である。身近にいる人とは、身近にいる幼い人や高齢者、友達等を指す。2年生においては「親切、思いやり」の教材は3点あり、以下のように系統性があると考えられる。

	教材名	ねらいとする内容
①	ぐみの木と小鳥	相手に思いを向けることが思いやりであることに気付くこと
②	まいごのすず	困っている人に共感し、助けてあげたい思うことが親切であることに気付くこと
③	公園のおにごっこ	自分が相手のためにしたいことではなく、相手の思いに気付いて行動することが親切であることに気付くこと

《主に社会的・実用的側面》

本内容項目は、様々な場面で相手のことを思った行為が見られることから日常生活との関連が深いものであると考える。また、第2学年の子供たちは、目の前の目標に向けて行動できるが、先のことを見通すことが十分ではない発達段階にある。そのため、学びを実感する場としては、「1日の学校生活」とする。特に、特別活動（生活創造活動）における学級内での当番活動や係活動での子供たちの生活との関連を重視する。

道徳的価値を多様な場面に広げる活動について

本時の展開後段において、以下に示す手順と主な手立てとして道徳的価値を多様な場面に広げる活動を行う。

手順	主な手立て
① 教材を通して捉えた道徳的価値が、これまでの自分の経験の中でどのような場面にあったのかを見いだす。	・自分ノート(これまでの出来事や思いを子供が書き綴ったもの)の提示
② 教材を通して捉えた道徳的価値を、これからどのような場面で生かすことができるのかを見いだす。	・1日の学校生活場面の提示

本時のねらい

- 自分が相手のためにしたいことだけが親切ではなく、相手の思いに気付いて行動することが親切であることに気づき、一日の学校生活の中で、どのように行動するのか考えようとする道徳的判断力を育てる。

本時の学習過程

学習活動・内容・予想される子供の反応	手立て
<p>1 これまでの学習や経験から「親切」について想起し、教材の状況と比較することで本時のめあてについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「親切について考える」という本時の見通しをもつこと <ul style="list-style-type: none"> ・ 遊びには入れるけど、タッチはしないようにする。 ・ 危ないから、違う遊びで遊ぼうかな。 <p>親切について考えよう。</p> <p>2 教材「公園のおにごっこ」を読み、しんじやゆうたに共感しながら、その思いについて話し合う。</p> <p>(1) ゆうたの気持ちが変化した理由を考え、「親切とはどういうことなのか」について自分の考えを基に話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 親切とは、自分が相手にしたいことをするのではなく、相手の思いに気付いて行動することだということに気付くこと <ul style="list-style-type: none"> ・ ゆうたは、自分の思いに気付いてもらえたからうれしかったんだね。 ・ 親切とは、相手の思いに気付いて行動すること。 <p>(2) 本時学んだことがどのような場面で適用するかについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「これまでの経験」と「これからの生活」の2つの視点から、本時で学んだ「親切」が適用する場面を捉えること <ul style="list-style-type: none"> ・ 1年生との学校探検のときに、スタンプを押してあげようと思っていたけれど、1年生が自分でしたいと言っていたのでさせてあげたよ。 ・ 相手が困っているときには、どうしたいか相手に尋ねる方法もあるよ。 	<p>※ 本時の見通しをもつことができるように、これまでの経験から教材の場面ではどのように行動するか話し合う場を設定する。</p> <p>※ 本時ねらう価値理解に迫るために、「初めのゆうたと終わりのゆうたの思いはどのように変わりましたか」と補助発問する。</p> <p>※ 学んだことが適用する場面を捉えることができるように、「自分ノート」や「一日の生活を示したホワイトボード」を活用し、グループ交流の場を設定する。</p>
<p style="text-align: center;">相手の思いに気付いて行動すること</p> <p>これまで → 振り返る ← 1年生との関わりで大切にできていたな。</p> <p>→ 見通す → これから 配り係の仕事のときにも大切なことだな。</p>	
<p>3 本時学んだことを基に、どのような自分になりたいのかについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ なりたい自分について考え、実践意欲を高めること <ul style="list-style-type: none"> ・ 困っている相手のことを思って助けることが親切だと思っていたけれど、ときには相手にとってそれが親切ではないことがあるということが分かった。これからは相手の思いに気付いて行動できる自分になりたい。 ・ 相手が助かると思って配り係の仕事を手伝っていて、うまくいかずにけんかになってしまったことがあるな。これからは、状況に応じて相手のために行動できるようになりたい。 	<p>※ なりたい自分について考え、実践意欲を高めることができるように、本時で学習したことをノートに記述したり、ペアで交流したりする場を設定する。</p>

【本時求める子供の姿】

- ☆ 今日の学習で、親切は相手の思いに気付いて行動することだということに気付くことができた。帰りの準備のときに、勝手に配らずに「クロムブック持って来ようか？」と尋ねることで、誰にでもやさしい自分になりたいな。